

## 下村フェローシップ (2)

吉田 武志

本欄の第 6 回で「下村フェローシップ」が紹介されているが、今年度の上期招聘研究者である米国フォードム大学金融学部教授のイフセハー・ハサン(Prof. Iftekhar Hasan)先生が 6 月 19 日に来日された。下村フェローシッププログラムは、1964 年設立の設備投資研究所の初代所長を務めた著名な経済学者、下村博士を顕彰して 1990 年に開始され、今年で四半世紀を迎える。下村博士については、先月放映された NHK スペシャル「戦後 70 年 ニッポンの肖像」で、日本の高度成長期における民間設備投資拡大策の理論的支柱として紹介されていたので、ご覧になった方も多いのではないかと思います。

さて、下村フェローシッププログラムは、日本の経済・産業等の研究に意欲を有する外国人の研究者を設備投資研究所に招聘し、研究活動や当研究所研究員等との共同研究を通じて優れた研究成果を得るとともに、国際交流・相互理解を深めることを目的としている。昨年度までの招聘人数は 30 人にのぼり、受入時の年齢や国籍も多様性に富み、研究テーマも多岐に亘っている。この 30 人とのネットワークは設備投資研究所の宝の一つといえよう。プログラムの詳細は設備投資研究所のホームページ (<http://www.dbj.jp/ricf/fellowship/>) に記載しているので、是非ご覧頂きたい。

ハサン先生は 31 人目の招聘研究者となり、これから来月 10 日迄の滞在期間（プログラムの滞在期間上限は半年間である。）中に、(1)外資系銀行と所得の不平等：国際的な規制や制度の違いという観点から外資系銀行の存在と所得分配の関係を分析、(2)銀行間シ・ローン契約：金利や満期などの決定要因を銀行規制、市場構造等に焦点を当て分析、という設備投資研究所にとっても大変興味深い研究テーマに取り組まれる予定であり、7 月 9 日には当行内において研究成果を発表して頂き、ディスカッションを行うこととなっている。

ハサン先生のプロフィールを紹介すると、ヒューストン大で経済学の Ph.D を取得され、1982 年の同大研究助手から、ウィスコンシン大、アトランタ連邦住宅銀行エコノミスト、ジョージア工科大、ニューヨーク大、ラトローガス大、レンセラー工科大を経て、2011 年より現職と豊富なキャリアを有しておられる。短い期間ではあるが、ハサン先生には有意義な研究機会となり、ハサン先生との交流を通じて、設備投資研究所の研究テーマのひとつである銀行とコーポレートファイナンスについても研究が深化するよう祈念してやまない。

2015 年 6 月 29 日